

1．研究課題名：温暖化の危険な水準及び温室効果ガス安定化レベル検討のための、温暖化影響の総合的評価に関する予備的研究

2．研究代表者：三村 信男

（茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター）

3．研究実施期間：平成16年度



4．研究の趣旨・概要

地球温暖化を防止するための国際的な取り決めである気候変動枠組条約の目的とするところは、生態系や社会・経済に危険を及ぼさないような大気中の二酸化炭素などの温室効果ガス濃度を安定化させることである。地球規模で中長期的な温暖化対策を推進していくためには安定化濃度レベルを明らかにすることが必要である。しかし、科学的にみて温暖化の危険な水準及び温室効果ガスの安定化濃度についてはまだ国際的なコンセンサスは得られていない。このため、影響からみた温暖化の危険な水準及び安定化濃度レベルの判断に資する科学的知見をまとめること、致命的な影響を回避するための温室効果ガスの排出削減経路を明らかにすることが、中長期的な温暖化対策推進のための科学的知見として重要視されつつある。

本研究の目的は、1) 広範な研究レビューを含む調査研究を実施し、温暖化の危険な水準及び温室効果ガスの安定化濃度レベルに関する最新の知見と研究課題を整理すること、2) 水資源、農業、健康などの一部の分野については予備的な研究を実施し、影響から見た温暖化の危険なレベルに関する検討を行うことである。

これらにより、大気中の温室効果ガスの安定化濃度レベルについて温暖化の影響・リスクの視点から具体的な数値を示すことができ、今後の地球温暖化対策を策定、実施する際に考慮すべき安定化濃度レベルへの排出量削減の筋道を示すことが期待される。また、温暖化に関する科学的知見を評価している気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第四次評価報告書の作成および関連ワークショップにおいて研究成果を報告することにより、国際的にもこの分野におけるリーダーシップをとることが期待される。

5．研究項目及び実施体制

戦略的研究計画及び温暖化の危険な水準、安定化シナリオに関する研究

（（独）国立環境研究所、茨城大学）

温暖化の影響評価の高度化及び適応策に関する予備的研究

（東北大学、東京大学）

温暖化影響の経済評価及び総合評価に関する予備的研究

（名古屋大学、名城大学）

## 6. 研究のイメージ

